

# 第5期 (2018~2020年度) 事業計画

## 1. 第5期達成目標

中部地方の協働・ESD・SDGsの活動支援に資するツールとシステムを構築し、活動の質と量を拡充するEPO中部としての方策を確立します。

## 2. 方針

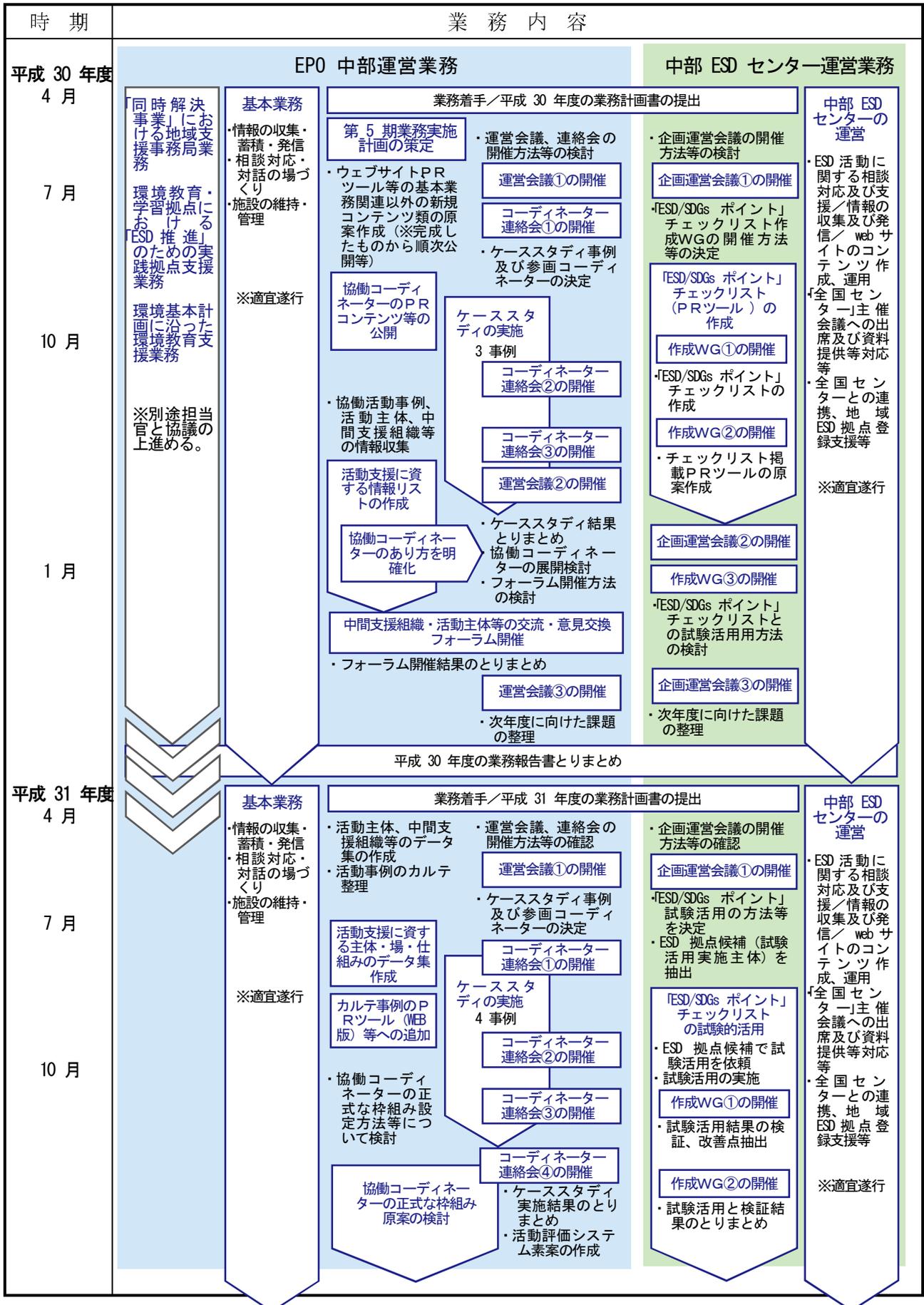
- ESD/SDGsの意義とビジョン及びEPO中部の役割等、協働促進のための情報発信を継続的にを行います。
- EPO中部独自の協働・ESD・SDGsの活動支援ツール・システムとなる
  - ① 「活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集」の作成・活用
  - ② 「活動評価システム(活動効果やSDGs要素を可視化するシステム)」の構築・検証
  - ③ 「EPO中部・協働コーディネーター」の活用展開
  - ④ 「ESD/SDGsポイント」チェックリスト・ツールの作成・活用
 に「動機付け」と「見える化」を視点として取組みます。  
 (各業務の「方針」または「目標」で該当するものについては、丸番号を末尾《 》内に記載。)
- 地域づくり活動に対する活動主体や中間支援組織等のニーズや課題を抽出する機会・場づくりを行い、ニーズ・課題等をEPO中部の業務へフィードバックします。

## 3. 3か年度(2018年度~2020年度)の目標、方針、事業

目標	第4期までのEPO中部の蓄積を引き継ぎ、活用しながら、中部における協働促進のための拠点であるEPO中部のプレゼンス(存在感)を確保します。	
	方針	事業
平成30(2018)年度	● 従来の情報収集・情報発信に加えて、協働による取組みの効果・利点がアピールされる情報発信に取り組めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動団体・活動事例及び協働コーディネーターの紹介・PRのためのコンテンツ・ツール(WEB及び印刷物)の作成。(※平成30年のみでなく第5期3年間継続して活動事例収集とPRコンテンツを作成・公開。)</li> <li>・ 活動団体等の取組みやお知らせが関係者以外にも広く認知されるよう、SNSなどの情報発信の展開方法について検討。</li> </ul>
	● 協働コーディネーターを活用し、活動・協働の評価システム構築の素材・要素の抽出につなげるケーススタディを展開します。《②③》	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協働コーディネーターを活用したケーススタディを実施(※平成30・31年度の2年間で実施。)</li> </ul>
	● 協働・ESD活動の支援に資する、中間支援組織などの主体、場、仕組み(制度)の把握を行います。《①》	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中間支援組織など活動支援に資する主体・場・仕組みの把握(リスト化を前提)。</li> </ul>
	● その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協働、ESD・SDGsに関連する活動主体や中間支援組織、協働コーディネーター及びEPO中部による交流と意見交換を目的としたフォーラムの開催。</li> </ul>

平成31 (2019) 年度	<b>目標</b>	中部における協働と ESD 及び SDGs の活動の拠り所、ポータルサイトとしての「EPO 中部」「中部 ESD センター」の有用性を確立します。	
		<b>方針</b>	<b>事業</b>
		● 先進事例や中間支援組織など、協働及び、ESD・SDGs の取組みの活動支援に資するデータ集を作成し、その活用のための仕組みづくりを行います。《①》	・平成 30 年度に作成した中間支援組織等のリストをもとに、ESD・SDGs 活動支援に資するデータ集の作成とそのデータベース化（関係団体・機関等の活用も念頭に）。
		● EPO 中部の協働コーディネーターの正式な位置づけを明確化し、その体制整備の準備を進めます。《③》	・協働コーディネーターの展開方策を決定し、その実現化に向けた原案づくりやスケジュール・計画等立案。
		● 協働・SDGs の活動評価システム構築を目的としたケーススタディを展開し、評価方法やシステム構築方法等についての調査・研究を行います。《②》	・ケーススタディを継続実施すると共に、協働コーディネーター参画のもと、協働・SDGs の活動評価システム構築に向けたケーススタディの検証作業を実施。
	● その他	・地域づくり活動における支援ニーズや課題の抽出を目的とした「協働と ESD・SDGs 活動の効果・利点、及び、その“見える化”」をテーマにしたフォーラムを開催。	
平成32 (2020) 年度	<b>目標</b>	協働・ESD 活動の質と量を拡充する EPO 中部の体制と機能確立するため、活動支援と活動効果の明示化につながるシステムを構築します。	
		<b>方針</b>	<b>事業</b>
		● 協働・ESD・SDGs の活動評価システムを構築・公開します。《②》	・平成 31 年度のケーススタディ検証結果をもとに、協働・ESD・SDGs の活動評価システムを構築。
		● 「EPO 中部・協働コーディネーター」を正式な位置づけに基づく体制を発足させます。《③》	・協働コーディネーターを EPO 中部として展開していくための体制等を構築・発足等し、公表。
	● 活動評価システムの完成、協働コーディネーター正式発足をお披露目するフォーラムを開催します。《②③》	・協働・ESD・SDGs の活動評価システムと「EPO 中部・協働コーディネーター」の正式稼働、完成等を PR するフォーラムを開催。 ・フォーラムでは、活動評価システム体験会も併催。	

# 4. 業務フロー



時 期	業 務 内 容	
平成 31 年度 1 月	<p style="text-align: center;"><b>EPO 中部運營業務</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 25%;"> <p><b>基本業務</b></p> <p>※適宜遂行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>協働コーディネーターの正式な枠組み原案の検討</li> <li>協働コーディネーター連絡会の検討結果など検討材料のとりまとめ</li> </ul> </div> <div style="width: 50%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>フォーラム開催の企画検討</li> <li>協働コーディネーターとの交流フォーラム開催</li> <li>フォーラム開催結果のとりまとめ</li> <li>運営会議③の開催</li> <li>次年度に向けた課題の整理</li> </ul> </div> <div style="width: 25%;"> <p><b>中部 ESD センター運營業務</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「ESD/SDGs ポイント」チェックリストの試験的活用</li> <li>「ESD/SDGs ポイント」チェックリストの修正版原案の作成</li> <li>企画運営会議②の開催</li> <li>次年度に向けた課題の整理</li> </ul> </div> </div>	<p style="text-align: center;"><b>中部 ESD センター運營業務</b></p> <p>※適宜遂行</p>
平成 31 年度の業務報告書とりまとめ		
平成 32 年度 4 月  7 月  10 月  1 月	<p style="text-align: center;"><b>業務着手／平成 32 年度の業務計画書の提出</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 25%;"> <p><b>基本業務</b></p> <p>※適宜遂行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報の収集・蓄積・発信 相談対応・対話の場づくり 施設の維持・管理</li> <li>協働コーディネーターの位置づけ等を正式に決定</li> <li>協働コーディネーターの正式な位置づけのための作業</li> <li>活動評価システム構築作業</li> <li>協働・SDGs 活動評価システムの完成に向けて作業を継続</li> <li>協働取組み方モデルの作成</li> <li>中間支援組織に対するニーズの抽出・整理</li> <li>活動団体に提示する協働の取組み方モデルの検討</li> <li>活動効果の見える化フォーラムの開催 (活動評価システムと協働コーディネーター制度の発表)</li> <li>フォーラム開催結果のとりまとめ</li> </ul> </div> <div style="width: 50%;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>運営会議、連絡会の開催方法等の確認</li> <li>運営会議①の開催</li> <li>コーディネーター連絡会①の開催</li> <li>ケーススタディ実施結果の確認と活動評価システム素案検討</li> <li>コーディネーター連絡会②の開催</li> <li>協働コーディネーターの位置づけの最終検討</li> <li>フォーラムでの活動評価システム体験プログラム実施方法の検討</li> <li>運営会議②の開催</li> <li>協働コーディネーターの今後の展開の公表方法の検討</li> <li>フォーラム開催方法の検討</li> <li>コーディネーター連絡会③の開催</li> <li>フォーラム進行方法等の確認</li> <li>活動効果の見える化フォーラムの開催 (活動評価システムと協働コーディネーター制度の発表)</li> <li>フォーラム開催結果のとりまとめ</li> <li>運営会議③の開催</li> <li>第 6 期展開に向けた課題の整理</li> </ul> </div> </div>	<p style="text-align: center;"><b>中部 ESD センター運營業務</b></p> <p>※適宜遂行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企画運営会議の開催方法等の確認</li> <li>企画運営会議①の開催</li> <li>「ESD/SDGs ポイント」チェックリストの活用方法についての検討</li> <li>「ESD/SDGs ポイント」チェックリストの完成</li> <li>試験活用主体等に対し「ESD/SDGs ポイント」チェックリストの活用と ESD 拠点登録の呼びかけ</li> <li>企画運営会議②の開催</li> <li>チェックリスト活用をPRするシンポジウム開催の企画検討</li> <li>中部 ESD 拠点シンポジウムの開催</li> <li>シンポジウム開催結果のとりまとめ</li> <li>企画運営会議③の開催</li> <li>次年度に向けた課題の整理</li> </ul>
平成 32 年度（第 5 期）の業務報告書とりまとめ		

## 5. 主な取組の3か年実施展開案

### ① 「活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集」の作成・活用

- 協働・ESD・SDGs 活動の活動支援につながるデータ集・事例集を作成、公開し、その活用のあり方について検討を行います。
- 事例（EPO 中部で蓄積された事例等）については、活動主体が中間支援組織に求めるニーズを分析するためのサンプルとしても活用し、活動主体側・中間支援組織側の両者間のニーズの適合が図られるツールづくりを目指します。

#### 【概要】

- 中部における協働・ESD・SDGs 活動の支援につながるデータ（主体・場・仕組み（制度））についての情報と整理を行い、EPO 中部と中間支援組織等にとっての有用な情報提供ツールを作成します。
- 第4期までに EPO 中部が集積した中間支援組織の関わる事例等を、中間支援組織側・活動主体側・その他行政等側のそれぞれの観点から提供した・された資源・ノウハウ・業務等を中部地方の「協働」の取組み事例として整理し、PRツール（ウェブサイト含む）等で紹介・公開します。
- 収集した事例をカルテ形式に整理するなどして、活動団体側が中間支援組織に対し求めているニーズの抽出を行い、活動団体が中間支援組織を活用した（中間支援組織が十分に活用される）協働の取組み方のモデル（基本的フロー／理想的モデルなど）を提示します。

#### 【業務の進め方】

- 平成30年度は、中部における協働・ESD・SDGs 活動の支援につながるデータ（主体・場・仕組み（制度）など）にどのようなものがあるか検討・抽出し、該当する情報の収集とその整理に取組みます。
- 平成31年度は、収集した情報が、EPO 中部と中間支援組織等にとっての有用な情報として提供できるよう、提供方法やツールのあり方などについて検討し、公開・活用が可能なデータ集としてのとりまとめを行います。
- また、第4期までに集積された事例を含め、EPO 中部で蓄積されてきた事例を整理し、中間支援組織側・活動主体側・その他行政側等の主体それぞれの観点から提供した・された資源・ノウハウ・業務等はどのような内容であったかカルテ形式などの形で整理します。
- 平成32年度には、事例カルテをもとに、活動団体側が中間支援組織に対し求めているニーズについて整理・分析を行い、協働の取組み方のモデル（基本的フロー／理想的モデルなど）を活動主体や中間支援組織など関連主体に提示します。

### ② 「活動評価システム（活動効果や SDGs 要素を可視化するシステム）」の構築・検証

- 協働の活動効果や「ESD」「SDGs」との関連性を可視化、明確化することを目的とした活動評価のシステム（仕組み）として、協働コーディネーターのファシリテーション能力を活用した EPO 中部独自のワーキング・プログラムづくりに取組みます。
- 取組みにあたっては、協働コーディネーター連絡会（以下「連絡会」）を設置し、協働コーディネーターの参画によるケーススタディを実施するなどして、必要な要素の抽出・蓄積・整理等を行います。

#### 【概要】

- 「協働及び ESD/SDGs の活動評価システム」は、地域づくり活動の協働による活動効果や、その活動と ESD・SDGs 要素との関連性を可視化するワークショップ等を行う活動支援プログラムとなることを想定しています。
- プログラムづくりにあたっては、協働コーディネーターの参画によって事例を選定し、その事

例の活動者を対象にしたプログラムの試行的実践を通して「協働」「ESD」「SDGs」要素を抽出し、検証等までを行うケーススタディを実施します。

### 【業務の進め方】

- 平成 30 年度は、「EPO 中部運営会議」「連絡会」への「協働及び ESD/SDGs の活動評価システム」に関する諮問を行った上で、協働コーディネーターと共にケーススタディの実施対象団体（活動）を抽出する検討を行い、実際に、協働コーディネーターのファシリテーション能力を活用したプログラムによるケーススタディを実施していきます。
- 平成 31 年度も引き続きケーススタディを実施し、併行して、2 か年度間に実施したケーススタディの検証結果をもとにした活動評価システム構築のための検討材料の整理を行います。
- 協働コーディネーターは、事例の選定や、ファシリテーターとしてのプログラムの試行的実践などに参画し、「連絡会」の場などで、活動評価に必要な素材の抽出・整理の方法、プログラムの内容等について検討を積み重ねます。
- 平成 32 年度は、活動評価システムを完成させて、ESD・SDGs の活動主体や中間支援組織を対象にした「活動効果の見える化」をテーマにしたフォーラムを開催し、その場でシステム完成を公表・紹介します。

## ③ 「EPO 中部・協働コーディネーター」の活用展開

- EPO 中部の協働コーディネーターとして、第 5 期以降も活躍していただき、EPO 中部として協働コーディネーターの存在を PR し、地域づくり団体等へ広く紹介していくため、「EPO 中部・協働コーディネーター」のあり方を改めて明確な形に位置づける検討を行います。
- 併行して、協働コーディネーターの紹介・PR ツールを作成、活用するなどして、中部地方の様々な活動において、協働コーディネーターが参画活用される機会づくり・素地づくりも進めます。

### 【概要】

- 第 4 期 EPO 中部で活躍した協働コーディネーターを今後も継続して活用展開していくため、第 5 期では協働コーディネーターの EPO 中部としての位置づけ、あり方等を明確化し、今後の展開方策について検討を行う共に、必要なシステム（体制・体系・制度等）の整備を行います。
- 協働コーディネーターのあり方等については、「EPO 中部運営会議」を中心に検討を進めます。
- また、協働コーディネーターの活動実績・活動意義・ノウハウ等を蓄積・共有していくことを目的に、第 5 期では「連絡会」を設置、開催し、連絡会においても協働コーディネーターのあり方、展開の方向性について議論し、ここで提示された意見等を EPO 中部運営会議に諮問します。

### 【業務の進め方】

- 平成 30 年度は、「EPO 中部運営会議」への諮問と「連絡会」での議論を重ね、EPO 中部にとっての協働コーディネーターの位置づけやあり方、展開の方策について検討し、方向性を決定していきます。
- また、それに併行して、協働コーディネーターの紹介・PR ツールを平成 30 年度に作成し、公開・頒布するなどして、「EPO 中部・協働コーディネーター」が存在することを広くアピールすると共に、中部地方の地域づくり活動で協働コーディネーターが参画活用される機会の創出・向上を目指した活用を行っていきます。
- 平成 31 年度は、「EPO 中部運営会議」と「連絡会」での検討をもとに、平成 30 年度の検討結果を具体化するための原案づくり、計画立案等に取り組めます。
- 平成 32 年度は、平成 31 年度で策定した原案、計画に基づき、その実現化のために必要な手続きや作業等を行い、正式な発足、或いは制度化、稼働を開始し、その公表を行います。

- 公表の際には、活動団体等が前述の「活動評価システム」を体験しつつ、協働コーディネーターとも交流する機会となるプログラムを盛り込むなどしたフォーラムを開催します。

#### ④ 「ESD/SDGs ポイント」チェックリスト・ツールの作成・活用

- 地域 ESD 拠点や地域活動者による活用ツールとなる「ESD/SDGs ポイント」チェックリスト（仮称）を作成します。
- チェックリストによって、活動主体が「ESD」「SDGs」と活動との関連性を認識し、地域 ESD 拠点への登録の誘引ツールとなるよう活用します。

##### 【概要】

- 「ESD/SDGs ポイント」チェックリスト（仮称）は、活動者等が自記入式等で自分たちの活動等に関する設問等の簡易なチェック項目に回答していくことによって「ESD/SDGs ポイント」を積算し、自分たちの活動と「ESD」「SDGs」との関連性をポイントで明示していく仕組みとなることを想定しています。
- PR ツール（ESD センターの取組成果と中部の ESD/SDGs 活動の PR ツール）と併せて掲載や配布等して、「ESD」「SDGs」の認知度向上と取組みとの関連性を改めて認識し、地域 ESD 拠点への登録促進を図るためのツールとして活用されることを目指します。

##### 【業務の進め方】

- 平成 30 年度は、「ESD/SDGs ポイント」チェックリストの項目作成にあたり、専門家等による作成WGを設置して、項目の抽出、リストの作成に取り組みます。
- 併行して、「ESD/SDGs ポイント」チェックリストの掲載や併用を前提に、PR ツール（上記）を作成します。
- 平成 31 年度では、「ESD/SDGs ポイント」チェックリストの活用主体として想定される、自治体や教育機関等の地域 ESD 拠点候補をリストアップし、その拠点候補の協力を得て、「ESD/SDGs ポイント」チェックリストを試験的に活用してもらい、ESD 拠点の使用ツールとしての有用性についての検証を行います。
- 同時に、拠点候補に対し、「ESD/SDGs ポイント」の活用と共に、地域 ESD 拠点への登録促進を図ります。
- 平成 32 年度は、検証結果をもとに「ESD/SDGs ポイント」チェックリストを改善し、ツールとして完成させると共に、地域 ESD 拠点や活動主体等を対象にした、「ESD/SDGs ポイント」の活用と地域 ESD 拠点登録の呼びかけを目的としたシンポジウムを開催します。

第5期3か年におけるEPO中部独自の協働・ESD・SDGsの活動支援ツール・システムの作成・構築の進め方

